

松江キャンパス ニュース

The University of
Shimane Junior College

前橋県立大学短期大学部松江キャンパス広報

1
vol.
2008.4.1

地域連携

■松江商業高校・宮内中学校
との連携事業 他

公開講座

■学校図書館情報講座 他

授業紹介

■インテリアマゼイン講 他

行事その他

■国際交流・学祭等 他

TOPICS

地域にあって
輝く大学を目指して

松江キャンパス



副学長
高橋 俊二

副学長あいさつ

松江市との地域連携について

大学の役割は、周知の通り「教育と研究」にあります。しかし「教育と研究」も地域から発展して成立するものではありません。自然科学、社会科学はそれぞれ「自然と人間」の探求をテーマとします。それらの題材は全て地域にあります。そして「教育と研究」の成果は地域に還元されます。

このように大学と地域は相互関係の中で活動しています。その関係を一層強化するために統合法人化を契機に地域連携推進センターを、松江キャンパスに設置いたしました。大学の「教育と研究」を発信し、地域のニーズを受け止め、成果を地域に還元するための窓口を創設したのです。

昨年は、「松江市と公立大学法人鳥取県立大学との連携協定に関する協定書」を締結いたしました。公立大学法人鳥取県立大学としては岡田市との連携協定に続き、地方自治体とは県内2回目の連携協定となります。「包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識経験社会の形成などの分野において相互の協力関係を一層強化させ、もって地域社会の発展に寄与する」ことを目的としています。

2020年は鳥取県松江市とともに、浜田キャンパス、出雲キャンパス、松江キャンパスの各3「教育と研究」に力を入れる相互連携、施設設備の相互利用、共同研究などを実質的に推進する機運の年となることを希望いたします。

地域における 図書館連携を目指して

松江キャンパス図書館長 河原 修一

同じ地域にある図書館が、でんぱらばらに図書や雑誌を貸出するのではなく、それぞれ特色を生かして相互、相互に利用する方が良いのではないのかという考え方があった（私は子供が関与していないこともある）。ただ、大学図書館と公民館図書館とは、役割が違う。

まず、鳥取県内の大学図書館連携を進めようということになった。昨年の秋から、県立大学浜田・出雲キャンパス図書館、鳥取大学図書館、松江高等図書館との相互利用（実証段階・貸出、取寄せ・コピー）が始まった（具体的な条件は、松江キャンパス図書館ホームページを参照されたい）。

浜田キャンパス総合教育学部と本キャンパス総合文化学科、出雲キャンパス看護学科と本キャンパス健康栄養学科・保育学科、鳥取大学法文学部と本キャンパス総合文化学科、鳥取大学教育学部と本キャンパス保育学科、鳥取大学生物資源学部と本キャンパス健康栄養学科、鳥取大学総合理工学部・松江高等と本キャンパス総合文化学科生活文化デザイン系とは、専門的に強い特徴がある。卒業研究や実習などの資料を参照する際に、活用されたい（特に、鳥取大学図書館は松江市内において、立ち寄りやすい）。

今年の春から、鳥取大学教育学部図書館との相互利用も始まる予定である。

松江市立図書館との連携は、昨年秋の結びに感じ合いが始まったところである。

社会人学び直し ニーズ対応事業スタート

地域連携推進センター 副センター長 山下 由紀恵



平成19年度、文部科学省委託「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業として、本学の「鳥取県からの子育て支援拡充に向けた専門職再教育プログラムの開発」が採択された。平成20年4月現在、松江・出雲・浜田キャンパスを拠点として、専門職者向けの「子育て支援」再教育講座がスタートしています。

本事業で対象としている専門職者とは、保健・栄養保健（助産師・保健師・栄養士・管理栄養士等）、保育・教育福祉（保育士・幼稚園教諭等）の専門資格・免許を持つ職業者と、資格・免許を持ちながら無資格の方たちです。

受講者募集を開始後、2カ月前程しか広報期間がなかったにもかかわらず応募がある。「産後うつケア・虐待予防コース」「食育実践指導コース」「学障発達支援コース」の3コースで、あわせて約1,400人の専門職受講者が企画あるいは個別から集まりました。「子育て支援」のための質的向上をめざして、会場は熱気にあふれています。

松江商業高校との高大連携保健合同授業

保健文化学科 講師 西良博之

松江商業高校との連携授業を「サラサラ血液とは何か」というテーマで、2年生を対象に行いました。担当の先生との打ち合わせでは、「保健」の授業の一環として行うので、生徒の健康に対する意識を高める内容であり、それに追加大学での講義に制約させて欲しい。ただ、「生物学」を履修していない生徒にも理解できる内容で、との事でした。

そこで、「血液の粘性」と健康との関わりについて、「水分調節」

ビタミンKが不足すると・・・



「細胞膜と動物細胞」「細菌と線虫」の3点

に絞って、追加の講義で実際に使っているプリントも利用し、身近なところから話すことにしました。当日は「リアクション係」の生徒さんも参加してくれました。授業のあと書いてもらった感想・質問用紙には、なかなか深い突っ込み(心臓の細胞由来と文脈由来との関係)や、ユニークな反応が多く、回答を書くのが楽しかったです。ただ血液凝固の説明ではカタカナ名が多く、面白かったとの感想もありました。



松江市立湖南中学校との連携

保健文化学科 講師 高橋 純

理科科学では、1年生の総合的な学習の時間に「地域原産～地域について知ろう。松江(わか町)」というテーマのもと、松江の文化・産業・自然などを学習しているそうです。そこで、地域連携の一環として、本学の副学長の奥橋と総合文化学科の教員4名、それに「のんびり森」を履修した学生4名が、6日にわたって、各自の専門や経験をお話しさせていただきます。1回目は「地域産物の魅力～松江再発見の旅～」(小原)、2回目は「商社のまちづくり」(高橋)、3回目は「フィールドワークを行うにあたって」(奥野)、4回目は「情報や資料を使う方を身につけよう」(奥山)、5回目は学生4名による「のんびり森」履修とその経験について」、6回目は、「発表についてのもあれこれ」(高橋純)と保健科他の学習から見るの仕方という一連の講義に沿っての講義でした。



そして、3月8日にこの話を聞いてくれた生徒さんたちが、本学の大講義室を利用して発表会を行いました。発表は6つで、非常によく聞いてまとめられていました。また各グループで、演劇形式を取り入れたり、ビデオを使ったりと、発表題材も上手に使い、工夫した面白いものに仕上げられました。

公開講座

「学校図書館経営講座」

健康文化学科 教授 堀川 繁代

子どもたちの活字離れや読解力の低下が指摘され、読書力や情報活用能力の重要性が強調されるなかで、各方面から学校図書館への関心が表明されています。しかし、現実には学校図書館に関する理解は低く、学校図書館担当者から要望されている学校が少なくあります。本講座は、図書館や学校司書などの方々を対象に、キャリア・アップを図り、種々のつながりを深めることを目的に、平成19年度から開講したものです。

19年度は20名余の学校司書や司書教諭、学校図書館支援センタースタッフの方々とともに、図書館オリエンテーションや年間指導計画などについて、互いの実践を報告し合いながら理解を深めました。来年はさらに意見交流を多くしていきたいと思っております。地域の事情も異なるなかで、現場に即し、建設的に動けるようなヒントを提供できるように取り組んでいます。

「充実した健康寿命を 獲得するために」

健康文化学科 助教 籠橋 有紀子

本講座では、一般の方を対象に、「身体の構造と機能」「生活習慣病」「地域の食品」について、健康栄養学科教員が各々の専門の視点から、講義致しました(全3回)。

健康寿命とは、私たち一人ひとりが生きている長さの中で、元気で活動的に暮らすことができる長さのことを指します。現在では、単に寿命の延伸だけでなく、この健康寿命をいかに延ばすかが大きな課題であり、生活習慣病の子供が大きな割合となっています。個人に合った方法で健康寿命を獲得するために必要な知識を深めることが、本講座のねらいです。希望者は、少人数制の実践型講座で、身体組成の測定や食事調査などを行うことにより、自分自身の生活習慣について理解を深めることができます。意欲あふれる受講者の方々に参加いただき、昨年最も成長のうちに終了することができました。本年度も、昨年並に引き続き、健康と栄養について実践型を並えた2講座を開講致します。

「栄養士のためのステップアップ講座」

健康文化学科 教子 飯橋 千津恵

この講座は、昨年度「管理栄養士受験講座」として開講していたもので、本学を卒業し、「管理栄養士」国家試験の受験資格である3年以上の実務経験を積みながら免許取得を目指す栄養士のために約10年前から開講しています。現在では、卒業生だけでなく、最寄市内の栄養士の方々も対象に、受験科目についての講義を、健康栄養学科の教員が毎週水曜日の15時から21時まで行っています。語る時の解説や仕舞ポイント、プリントなどを使って説明します。聴講ではあまり触れる機会のない基礎的な内容から復習を兼ねた実践的な分野まで幅広い構成で取り組んでいます。

参加者にはスケジュール等をメールで送りますので、自分の受けたい科目を選択して受講できます。また、webやメールで個別の質問を随時受け付け、遠方の希望者には講義資料を郵送しています。



民族音楽の講座は10年目を迎え、昨年度からは「ガムラン教室」として開講しています。インドネシアのガムランを実際に演奏してみようという初心者向けの教室です。果たして何人集まるか不安でしたが、いつも十数人が集まり、楽しい集団に成長しつつあるのはうれしく思っています。ガムランは清銅製の打楽器オーケストラですが、舞臺劇やワヤン(影絵芝居)にも使われます。私たちは今回はワヤンに挑戦し、「白雲雀」や「ヤマタノヲロチ」などから即興で曲奏を作りました。みんなで大騒ぎしながら登場人物になりきり、影絵人形を操っての「面白極」を楽しみました。



ワヤン(インドネシアの影絵芝居)に挑戦

「鳥獣界」・「神話の国 縁結び観光協会」主催

「出雲路講座」

総合文化学科 准教授 小泉 凡

ライブドアの講座で、「道員がわからない朝ワースト1」になってしまった鳥獣界。乃名道士を助すべく「鳥獣は鳥獣の法則です」とプリントされた鳥獣PRTシャツが人気を売上げたそうです。2006年度から、鳥獣界が管内で年々盛況している「出雲路講座」も密かに注目を浴びています。二年目を迎えた今年の講座ほどの目も定員を大きく上回る応募があり、しかもピーターは30パーセント未満なので、鳥獣・出雲に文化的魅力を感じる鳥獣界の道員が確実に多数存在するということです。私も、06年は「五感でとらえる鳥獣の魅力」、07年は「イザナ」に選んだ出雲

のお札ーハーン・チエンノシム・ピット・リアース博物館」と題してお話しさせていただきました。受講者の方々の目の輝きと向学心に圧倒されて帰郷。正攻法のPPTが効果を奏しているのかも知れません。それもひとえに出雲路の多種な魅力のなせる果なのでしょう。冒険に励んだTシャツのアプタイナー、ブログマンこと小野見さんもこの講座を盛り上げた立役者でした。



総合文化学科

インテリアデザイン論

総合文化学科 講師
藤原由香

生活文化デザイン系の住居・建築ジャンルの専門科目「インテリアデザイン論」を担当しております。インテリアの授業の中でも、「椅子」について興味を持つ学生が多い傾向にあります。そこで、椅子を通して、インテリアの他の要素について学習できるように心がけています。例えば、椅子の構造からデザインの歴史を学んだり、椅子の傾りなどの細部からカーナビなどのインテリア関連の世界を知る。部屋の雰囲気にあう照明器具を探し、照明・天井の色や組み合わせを考へるというように、椅子から室内全体のコーディネートへと視野を広げていきます。

高校までは習得ことの少ない分野ですが、この授業を通じて、インテリアデザインを好きになって、自分の部屋づくりにも反映させてほしいと思っています。熱心な学生は、大学のインテリアコーディネーターを目標として日々頑張っています。



総合文化学科

自然観察学

総合文化学科 教授
鹿野一彦

自然観察学は、野鳥観察を通して鳥類の自然のすばらしさを知るとともに、自然を身近に感じることを目的としています。

松江市周辺には行楽地や野鳥観察地が数多くありますが、この授業では、平日をかけて松江・松山や浜田(河口)へ出かけます。松江地区には鳥屋敷や野鳥観察の場があり、ここにはコガラやヤマガラスなど多種の小鳥が生息しています。浜田(河口)は日本有数の鳥の観察地、コヒタチウオ、マダイ、さまざまなカモ類など、多種の水鳥を観察することができます。

受講生はまず、基礎知識を習って野鳥を観察することから始めます。野鳥を見つけて、種類、特徴、行動などを記録します。記録簿で覚える野鳥の姿は美しく、感動的ですからあります。つぎに受講生は、観察結果を取りまとめて野鳥観察マップを作成します。そして、なげひつこの地域における鳥の種が共存できるのかを考へることを通じて、自然界の仕組みを理解していきます。自然観察学は、鳥類の自然に深くかつ学ぶユニークな科目なのです。



健康栄養学科

臨床栄養管理実習

健康栄養学科 眞井由美

この実習は2年前期に行われます。傷病者に対する栄養管理を実践に行うための技術を身につける実習です。具体的な事例をもとに栄養管理計画を作成したり、臨床栄養管理実習などの治療食の献立作成や栄養実習を行います。

臨床実習では、傷病者の病状や栄養状態に応じて、エネルギーやたんぱく質などの栄養素を測定した食事や、食事形態に配慮した献立やかな栄養管理を学習していきます。



保育学科

保育内容表現Ⅲ・表現Ⅳ

保育学科 教授
高山秀彦

「保育内容 表現Ⅲ・Ⅳ」は、保育学科1年生および2年生が履修するピアノ実技個人指導の授業です。1人ひとりの学生ごとの演奏レベルにあわせて指導を行います。演奏者(学生が弾いたこと、そしてイメージしたことをピアノで表現するということは、その演奏レベルには関係なく、やはりとても難しいほうです。週1回、1人約10分おまりのレッスンですが、毎回学生の皆さんは自分が思い描いた表現を少しずつ積み上げていきます。そして、毎週その表現の姿やスタイルも変わっていくのですが、指導をしている私たちにとっては、その変わっていく姿を見ることが一番楽しみであり、また嬉しい瞬間でもあります。



保育学科

美術工芸

保育学科 講師
堀井一彦

最先で考える。大人になるにつれて現実にはかわるようになり、物の価値を置いてほしいのようになっていってしまう? 故郷は金銭を使って見たり、聞いたり、触ったり、感じたりすることで世界と向き合っています。そんな子どもを理解し、子どもの感じ、気持ち、関心を汲みとれ共感できる心が保育者には求められます。「美術工芸」の授業では自分の最先の感覚を大切にし、実践者と対してかたちに表すことの、面白さ、喜びを体験的に知り、同時に子どもの発達段階に對して物の価値とも関連させながら知識を考へます。また、幼児の絵の鑑賞も行い、幼児の絵の特徴や発達段階、指導のポイントについても学習します。

具体的にバス、水泳館の員、自動販売機を使った海流活動、各種粘土や自然物を使った立体造形制作や環境実習を行います。授業をしっかりと使い、子どもたちの関心、挑戦する気持ち、不安、思いがけない発見、感動、達成感などを目標とさせましょう。



©2016 by 岡山大学

セントラルの学生たち

報告文芸学科 准 小玉 容子

フシントン州エレンズバーグにあるセントラルフシントン大学のキャンパスで日本語を教えるために3ヶ月間滞在した。滞在中は先生方や学生など、様々な人々と交流する。日本語クラスを受講しているアメリカの学生はもちろんだが、今回は他の学生達とも交流の輪を広げることができた。以前に留学している超大学院生、彼女たちのルームメートやクラスメート、そしてUESSという英語プログラムで勉強している台湾、韓国、モンゴル、サウジアラビアなどからの留学生たち。彼らの学生生活はもちろん勉強中心で動いているが、それだけではない。有志が集まってのバーベキューなどの練習や試合有り、西国の文化紹介の活動や音楽会への参加有り。週末は週末で、映画を見る人達やザワンタウンの歌謡に歌う人達もいれば、料理持ち寄りノーアルコールパーティーや自分の飲み物を持ち寄る飲み会などに参加する人たちもいる。実に活発で賑やかで、そして、それぞれの文化を大切にしている。



釜山青年館前町修習生との
交流会について

報告文芸学科 1年 木村 なつ美

2008年1月14日に、釜山青年研修館の学生と釜山大江キャンパスの学生の交流会が行われました。会場に集まった私達も、始め慣れないのでかなり緊張感でしたが、記念品交換などのオープニングで雰囲気も和み、その後2つのグループに分かれ和菓子作りとお茶会を通して交流を深めました。

和菓子作りは、一方の方の指導により行われ、教えあったりしながら、笑い声も絶えませんでした。お茶会では、途中で休憩できないと、参加者全員が興味津々、お茶を見た英語部員によるお茶前にも打ち込み、茶菓子を見て「綺麗」「食べるのがもったいない」という声も聞かれました。韓国の学生によるお菓子紹介では、初めて知るものばかりで興味をそそられました。交流会後は、写真を盛り合い、見返りは、名刺箱しく履き履きで手を割っていました。

約2時間という短い時間でしたが、異文化に触れられ、忘れられない体験をすることができました。



CAMPUS LIFE International Programs Open Campus & School Festival

オープンキャンパス

2007年度も8月9日にオープンキャンパスを開催し、本学を志望する230名余の生徒さんたちに、キャンパスより案内いただきました。前期大学館松江キャンパス全体の説明や志望学科別の説明、また個別相談のブースなども設け、本キャンパスを紹介いたしました。来ていただいた生徒さんたちのアンケートの中には、「とてもわかりやすい説明がありがたかったです」とや「丁寧に話して下さって、熱心さが伝わって嬉しかった」などの嬉しい感想もいただきました。しかし、まだまだ至らぬ点などもございましたが、このような点に關しましては、今後、個別相談しをお返させていただきます。2008年度も8月8日に開催いたします。

オープン
キャンパス



飛鳥祭

写真発表 北村 寛大 (報告文芸学科1年)

学期の数が月前になってとても忙しくなった。今年も初めての経験があったため忙しさに忙しい。「計画通りの準備い大会」と「大ピン冠大会」だ。例年行われる学生会企画であるトークショーに加えて、この二つの大きな企画はどのような準備が大きかった。毎日みんなでも準備成功がどううと夜まで準備を準備した。大量のそびの準備と調理、ピン冠大会に必要な準備の準備もし。今までなかったものをタイムスケジュールに詰め込み、内飾りもや得意の面白いものたくさんあった。

好成績取りながらも何とが学期は大成功に終わった。当日は、お手強いさんの協力もあってスムーズに進行した。学期を通して、人は一人では生きられない。支えあってこそということが身にしみて感じられた。

この思い出はずっと残ることはない。この輪をかきと改めてメンバーで協力いただいた方々にお礼を述べさせていただきます。

SCHEDULE

1学期行事予定



*入学式前後の日程も必ず事前でご確認ください。

CAMPUS TOPICS

- 「深海魚」・島根県民文化祭文芸作品
- 公募詩の部(一般の部)受賞

文学科国文学専攻 2年 渡部 静

中学の頃から詩を書き続けていました。それがこのような形で発表が、大変喜んでいました。

受賞者のインタビューは、自分だけでは気が付かなかった点について指摘を受け、勉強になりました。これからは多くの人に私の作品を見ていただき、読んでほしいです。

- 最後の「宮沢賢治劇場」、後輩への架け橋



既に12回を開催し、島根県全体の文学科国文学専攻2年生が行う「宮沢賢治劇場」、学習発表のため、最後の開催となった。テーマも「ラストプレゼント」である。リーダーと副リーダーから話を聞いた。今年は人数制・人数制変更が行われた。参加は当初の計画で、2x4mのスクリーンによる。これは保育科の先生や学生にも好評だったので、交流も深まった。

最終的なアンケートに回答し感想、ある質問の「どのぐらいが難しいか」という質問に対して「とんがっているところのぐらいが一番難しい」と、これが多かった。

そして、終了後、これも最後のこと。学生たちは、感謝で大笑い。本人たちにとっては4月からの7ヶ月間、楽しんでた大きな経験だった。「宮沢賢治劇場」は最後になるが、この経験は必ず役立てて、後輩たちに受け継がれていく。笑顔で終わらせたところである。文芸 島根県

- 嬉しいお便りをいただきました

総合文化学科 准助 堀川 順代

「夏休みこの様なお便りを頂し、上がりますね感謝し下していきたいと思います。始まるお準備も、ある程度の方からいただいたのが今年始めたことでした。

本学期国文学専攻4人が、入道修業修習中のバスケ部でバスを持っています。近くのお祭りに「行ってしま」の中でお待ちください。今と声をかけていただいていたお祭りに入る。コーナーで待ち待たない。新しいお便りを頂いたのでいいと思いますことでした。

そのお便り4人の学生が研修で実際に元のお便り、お便りお便りを渡したそうです。

「卒業を前にして喜びが一杯になりました。人の気持ちに寄り添う、プラスに感じさせるのは出来る気持ちで「卒業活動の思い出を表現されているのです。」と、その方は喜んでいました。

他校の方々が学生を優しく見守って下さることに心が感謝申し上げますとともに、改めて人を育て自分自身内に育っていくことの大切さを再認識した次第です。



CLUBS & CIRCLES

クラブ&サークル

自分らしさを発見できる。多様なジャンルのクラブ・サークルの一部をピックアップ

映画部

文学科国文学専攻 2年 小川 葉麻

映画部は、まだ創設してのサークルです。映画が好き、大きなスクリーンで映画を観たいという人が集まっています。現在部員も大勢いますが、各自好きな映画を、映画館に行ったり、サークルの日に学校で映画を楽しんだり、自由に活動しています。

今年も、夏休み活動会や顧問の先生の協力などで楽しんだ。学部ではみんなで色々な衣装を着てポップコーンを食べたのを楽しんだ。映画部、自分の趣味をみんなと共有し楽しんでいるから、他の科の人と仲良くできるサークルです。



パドミントン部

文学科国文学専攻 2年 中島 麻貴

部長は2人しか活動する人がなくて寂しかったのですが、4月になると同級生や他学年の人数がぐっと増え入部してくれて、部員数が一気に増え、すごくうれしかったです。最近では、練習練習やレック、練習試合などもできるように部員、部員らしくなってきました。パドミントンの練習の場にパドミとして汗を流したか、みんなでお昼を食って行ったから、みんなと仲良くしています。



今後は、パドミントン部として、いろんな試合に参加して行けたいと思います。初心者の方も経験者の方も、みんながパドミントンを楽しむような部活であってほしいです。

島根県立大学として創設し、「オープンキャンパスニュース」第1号を発行することができました。今年度は紙媒体で編み直しましたがいかがでしたでしょうか。発行後ということでもご感想をお聞かせください。記事の数もまだまだ少ないかもしれませんが、随分お返事もお寄せ下さい。また、ご連絡いただいた方からも、感謝申し上げます。今年度はオープンキャンパスの広報戦略として、L型となります。よろしくご感想をお願いします。(学生部 広報)



島根県立大学短期大学部 松江キャンパス

〒690-0244 島根県松江市長町7丁目4番4号
TEL 0852-26-5525 FAX 0852-21-8150

■行 行：島根県立大学短期大学部松江キャンパス
メディア 図書館委員会

■発行日：2008年3月31日

広報部長 佐藤 隆司 部長 藤本 一樹